

『名前は何と言ふ人ですか』と問ふと『春子さんです』と言ふ。

『あなたの名前は』と聞くと『久子です』と言つた。

悔に似た、雨氣を含んだ嵐が急激に起つた。

蒸し熱い、頭が痛い。

アア、アア、残念だな。

僕は泣き出したのだつた。

自分に同情して人間は泣くのだとショペンハウエルは説明してゐる。

僕は誰に對して濟まないと思つて泣いたのか。

しかし僕の泣き聲を聞き付けて、奥から唐紙をあけて走り出た女がある。

瞬間に其の女の顔は春子だ。美しく洗はれたような目をしてゐた。

脊も此の前よりは高く見えた。

両手で片方の袂を顔に蔽ふて、くるりと後向きになつて、唐紙に立つたまゝ、ピタリ寄り添つて了つた。